



週間情報



No.0744

発行日 令和7年11月18日

発行所 全国消防長会

一般財団法人全国消防協会

担当 企画部企画課 03-4500-6622

両会の動き

◆ 消防実務講習会（救急コ・メディカルセミナー（第45回））を開催

一般財団法人全国消防協会東海地区支部

一般財団法人全国消防協会東海地区支部では、令和7年10月24日（金）、愛知県名古屋市において、消防実務講習会（救急コ・メディカルセミナー（第45回））を開催しました。

この講習会では、教育講演として、名古屋市立大学医学部附属西部医療センター小児科部長 准教授 加藤丈典氏を講師としてお招きし、「小さな命をまもるために ～救急現場での新生児・小児対応のコツ～」と題してご講義いただいた後、消防職員などによる5件の症例研究発表に対し、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院救急科医長 神原淳一氏から、助言をいただきました。

今後も、救急業務の向上のため、さまざまな取り組みを行ってまいります。

講習科目などは、以下のとおりです。

1 教育講演

「小さな命をまもるために ～救急現場での新生児・小児対応のコツ～」

名古屋市立大学医学部附属 西部医療センター 小児科部長 准教授 加藤丈典 氏

2 症例研究発表

【助言者】

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 救急科 医長 神原淳一 氏

【発表者】

- (1) 「小中学校での「防ぎ得た死」をゼロにするため、教員と協力した応急手当普及啓発の取り組み」

小牧市消防本部 伊藤正幸 氏

- (2) 「精神科救急における現場対応の課題と展望」

豊田市消防本部 近藤健人 氏

- (3) 「岐阜県救急隊DNARプロトコル改定後の取り組みと今後の課題について」

羽島市消防本部 古川雄也 氏

- (4) 「安全を最優先に活動する難しさ」

伊賀市消防本部 中村大樹 氏

- (5) 「病院救急救命士の業務内容と将来展望について」

名古屋市立大学病院 森田大貴 氏



【講習会の様子】

◆ 令和7年度消防実務講習会（警防）を開催

一般財団法人全国消防協会北海道地区支部

一般財団法人全国消防協会北海道地区支部では、令和7年10月28日（火）、北海道苫小牧市において、令和7年度消防実務講習会（警防）を開催しました。

講習会では、開催地である苫小牧市消防本部の小野消防長のあいさつの後、苫小牧市消防署消防1課の信本主査による「エネルギー・産業基盤災害対応型消防水利システム（ドラゴンハイパーコマンドユニット）」および「石油コンビナート防災体制について」の講義を実施しました。

また、北海道石油共同備蓄基地、苫小牧東部国家備蓄基地において、大容量送水ポンプ車や大型放水砲搭載ホース延長車の運用、共同防災体制の概要、現場での連携要領等を解説し、特殊災害に対する知見の向上と情報共有を図りました。

参加者からは、「実践的で有意義だった。」との意見が多く寄せられました。



【小野消防長あいさつ】



【講習会の様子】

消防本部の動き

訓練

◆ 「レスキューメディカルラリー」を実施

神戸市消防局（兵庫）

神戸市消防局では、令和7年10月21日（火）、兵庫県広域防災センターにおいて、当消防局垂水消防署が立ち上げた「医療の視点を取り入れた救助・救急連携強靱化計画」に基づき、実動訓練「レスキューメディカルラリー」を実施しました。

当日は、神戸市内西部方面の救助隊5隊、救急隊12隊、兵庫県災害医療センターのドクターカースタッフ5人が参加し、最前線の救助現場において、救助隊の安全管理と支援を受けながら、救急隊員と医療関係者が早期に救命処置を実施しました。

これらの高度な「救助・救急・医療」の連携活動により、救助活動開始から医療介入までの空白時間を短縮することができたほか、一人でも多くの命を救うための技術の向上とチームワークの醸成を図ることができ、災害対応能力をより一層強靱化することができました。



【訓練の様子】

◆ 特急列車を使用したテロ対策合同訓練を実施

海部南部消防組合消防本部（愛知）

海部南部消防組合消防本部では、令和7年10月22日（水）、近畿日本鉄道株式会社にご協力いただき、愛知県警察本部警備部機動隊および蟹江警察署と合同で、特急列車を使用したテロ対策合同訓練を実施しました。

この訓練は、「アジア・アジアパラ競技大会」の開催まで1年を切ったことに伴い、主要路線の鉄道構内におけるテロ対策の一層の推進と関係機関との連携強化を図ることを目的として実施したものです。

当日は、「走行中の特急列車内で無差別殺傷事件が発生し、刺傷者および化学剤の散布により複数の負傷者が発生した。」との想定で、関係機関と連携した活動を行い、現場対応力の向上と情報共有体制の構築を図ることができ、緊張感のある有意義な訓練となりました。

今後も、地域の安全・安心を守るため、関係機関との連携強化に努めてまいります。



【訓練の様子】

◆ 土砂災害救助訓練を実施

室蘭市消防本部（北海道）

室蘭市消防本部では、令和7年10月24日（金）、管内の訓練場所において、土砂災害救助訓練を実施しました。

この訓練は、室蘭市内には、大雨や地震により崖崩れや地滑りなどの発生する危険性のある急傾斜地が多いことから、土砂災害現場における救助活動技術の向上を図ることを目的として実施したものです。

なお、この訓練場所は、室蘭市と防災協力協定を締結している室蘭市建設業協会にご協力いただき、無償で整備していただいたもので、令和7年10月6日（月）、同協会に対し、消防長から感謝状を贈呈しました。

今後も、大規模災害に備えるため、同訓練場所を活用した訓練を継続するとともに、関係機関と連携した訓練を行い、救助活動能力の向上に努めてまいります。



【訓練の様子】



【感謝状贈呈後の記念撮影】

◆ 消防総合演習を実施

諏訪広域消防本部（長野）

諏訪広域消防本部では、令和7年11月4日（火）、諏訪郡原村の八ヶ岳自然文化園において、消防総合演習を実施しました。

この演習は、各所属で取り組んできた基本訓練の成果を反映し、指揮隊を中心とした部隊統制要領の再確認と情報の一元管理体制を構築するとともに、関係機関との連携強化を図ることを目的として毎年実施しているものです。

当日は、原村消防団と報道機関にご参加いただき、「建物火災が拡大して隣接する林野に燃え移り、林野火災へ発展した。」との想定で、情報収集のためにドローンを効果的に活用しながら、関係機関と連携した消火活動を実施し、より実効性の高い訓練となりました。



【指揮隊長による指示の様子】



【消火活動の様子】

研 修

◆ 防災講演会「能登半島地震に於ける避難所の開設と運営」を開催

松戸市消防局（千葉）

松戸市消防局では、令和7年10月19日（日）、地域防災リーダーの方々を対象とした、防災講演会を開催しました。

この講演会は、地域防災力の向上を図ることを目的として開催したものです。

当日は、石川県七尾市から能登半島地震被災者の山本直樹氏を講師としてお招きし、被災しながらも避難所運営の中心となって地域を支えた経験についてご講義いただき、実際の避難所での課題や工夫のほか、地域住民とともに乗り越えたエピソードが紹介され、参加者は真剣に耳を傾けていました。

この講演会を通じて、「災害時に有効なのは、普段からのコミュニケーションと声かけ」であることと、「地域の方々が信頼関係を深め合い、互いに助け合う力を育むこと」が何より大切であることを再認識しました。

今後も、防火防災訓練などの日頃の取り組みを通じて、地域の支援に努めてまいります。



【講演会の様子】

◆ 「尾張東部五市消防連絡協議会合同研修会」を開催

春日井市消防本部（愛知）

春日井市消防本部では、令和7年10月21日（火）、春日井市消防署において、5消防本部（瀬戸市消防本部、犬山市消防本部、小牧市消防本部、尾張旭市消防本部、当消防本部）で構成される尾張東部五市消防連絡協議会が主催する、「尾張東部五市消防連絡協議会合同研修会」を開催しました。

当日は、横浜市消防局総務部企画課の職員を講師としてお招きし、戦略的広報と共創連携における具体的な取り組みや手法などについてご講義いただき、喫緊の課題である人材確保や財源確保について知識を深めることができ、非常に有意義な研修会となりました。

今後も、今回の研修で学んだことを生かし、消防のブランディング力の向上や財源確保に取り組んでまいります。



【研修会の様子】

◆ 「うるま市消防三署合同救急活動訓練会」を開催

うるま市消防本部（沖縄）

うるま市消防本部では、令和7年10月17日（金）、21日（火）、28日（火）の3日間、「うるま市消防三署合同救急活動訓練会」を開催しました。

この訓練会は、救急活動の質の向上を図ることを目的として、毎年開催しているものです。

当日は、県立中部病院救命救急センター長の西山隆医師をお招きし、近隣消防本部の救急隊員にも見学していただく中で、複数傷病者対応、心原性症例、ショック症例を想定とした訓練を実施しました。

また、訓練後には、指導救命士が中心となりフィードバックを行ったほか、同医師の医学的知見から助言をいただき、共通認識を深めることができました。

今後も、訓練を通じて、隊員相互の共通認識を深めるとともに、病院前救護の質の向上に努めてまいります。



【訓練会の様子】

◆ 農業用機械事故に対する基礎研修を実施

笠間市消防本部（茨城）

笠間市消防本部では、令和7年10月29日（水）、JA常陸笠間農機センター、JA全農いばらき、クボタアグリサービス株式会社にご協力いただき、農業用機械事故に対する基礎研修を実施しました。

この研修は、回転刃への巻き込みなどの農業用機械事故に備えるため、農業用機械の構造を理解するとともに、初動対応力の向上を図ることを目的として実施したものです。

当日は、機械種別ごとの構造、事故事例の紹介、二次災害防止に必要な基礎知識を中心にご講義いただいた後、実際の農業用機械を活用して災害活動時の手順などを確認し、大変有意義な研修となりました。

今後も、地域住民の安全・安心を守るため、知識と技術の向上に努めてまいります。



【研修の様子】

◆ 「電力設備研修会」を開催

富士宮市消防本部（静岡）

富士宮市消防本部では、令和7年10月30日（木）、31日（金）の2日間、「電力設備研修会」を開催しました。

この研修会は、電気の基礎知識をはじめ、電線火災や太陽光発電火災時の注意事項などについて学び、より安全かつ確実な活動につなげることを目的に実施したものです。

当日は、延べ約100人の職員が参加し、東京電力パワーグリッド株式会社富士支社と富士制御所から講師をお招きして、電線と電柱などの構造、電力の流れや電気火災などの適切な対応方法についてご講義いただきました。

今後も、今回の研修会で得た知識を踏まえ、隊員の安全で確実な活動と二次災害の防止に取り組んでまいります。



【研修会の様子】

そ の 他

◆ 人命救助に貢献した２団体に消防長から感謝状を贈呈

長野市消防局（長野）

長野市消防局では、令和７年１０月２７日（月）、人命救助に貢献した２団体に対して、消防長から感謝状を贈呈しました。

本事案は、同年６月２８日（土）、長野県篠ノ井高等学校と学校法人古川学園上越高等学校による野球の練習試合中、心肺停止となった生徒に対し、両校の野球部関係者が連携して、迅速な１１９番通報、胸骨圧迫、ＡＥＤを活用した除細動を行い、救急隊到着までに意識・呼吸を回復させたものです。

生徒は、両校関係者の迅速で的確な対応によって、救命の連鎖につながり、搬送先の病院での治療後、無事に社会復帰しました。



【感謝状贈呈後の記念撮影】

◆ 救急協力者に感謝状を贈呈

つくば市消防本部（茨城）

つくば市消防本部では、令和７年１０月２９日（水）、救急協力者の３人に対して、消防長から感謝状を贈呈しました。

本事案は、同年６月、市内の大型商業施設で発生した救急事案において、心肺停止となった急病人に対し、付近にいた救急協力者の３人が協力し、迅速・的確な１１９番通報、適切な心肺蘇生法、ＡＥＤを活用した除細動を行ったものです。

急病人は、搬送先の病院での治療後、社会復帰しました。

当日は、救命された方も贈呈式に出席され、救急協力者の３人に対して、感謝の言葉を述べられました。



【感謝状贈呈後の記念撮影】

◆ 消防協力者に感謝状を贈呈

長岡市消防本部（新潟）

長岡市消防本部では、令和7年11月4日（火）、消防協力者の3人に対し、消防長から感謝状を贈呈しました。

本事案は、同年10月15日（水）、管内で発生した火災において、高床式住宅の2階バルコニーで救助を求めている住人を、消防協力者の3人が連携して救出したものです。

住人は、救急搬送されましたが、幸いにも入院することなく治療を終えることができました。

消防協力者3人の皆さまには、危険が伴う状況下で迅速な人命救助にご尽力いただき、深く感謝申し上げます。



【感謝状贈呈後の記念撮影】

◆ 学園祭において車両展示と採用広報を実施

東京消防庁（東京）

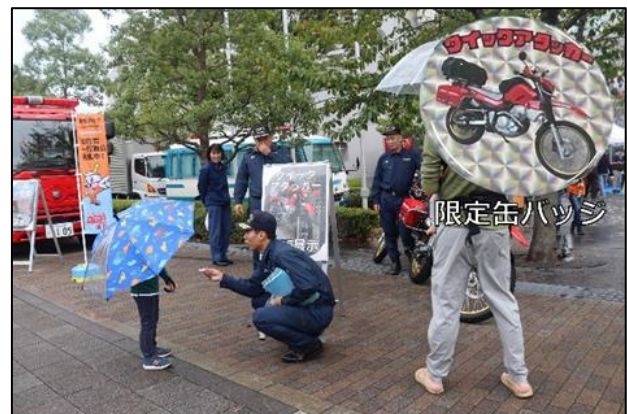
東京消防庁世田谷消防署では、令和7年10月19日（日）、管内の日本大学危機管理学部とスポーツ科学部が主催する学園祭（三茶祭）において、消防車両の展示と職員採用広報を実施しました。

当日は、来場者に楽しみながら車両に触れていただき、先着20人に対して当署オリジナル缶バッジを配布しました。

また、消防業務と親和性の高い危機管理学部とスポーツ科学部のキャンパスでイベントを開催し、未来の当庁を背負って立つ人材を確保することを目的として、職員採用広報を実施しました。

学生からは、「まだ就職が決まっていない中、新しい選択肢を知ることが出来て嬉しいです。」との声を聞くことができました。

今後も、当庁の未来を託すことが出来る人材を求め、採用広報に力を入れてまいります。



【イベントの様子】

◆ 幼年消防クラブ員を対象とした防災教室を開催

薩摩川内市消防局（鹿児島）

薩摩川内市消防局では、令和7年10月23日（木）、24日（金）の2日間、市内の幼年消防クラブ員を対象とした、防災教室を開催しました。

この防災教室は、幼児期において、災害の怖さ、危険はどこにあるか、どうすれば自分の身を守れるのかなどを学ぶとともに、災害発生時の初期対応行動を習得することを目的として開催したものです。

当日は、15の幼年消防クラブから347人が参加し、女性消防団員による大型紙芝居や職員による火の用心教室を行い、火災の怖さや避難の仕方について、身体を動かしながらゲーム感覚で学んでいただきました。

この防災教室を通じて、市内の幼年消防クラブ相互の交流を深めるとともに、防火防災意識の高揚を図ることができました。



【女性消防団員による大型紙芝居の様子】



【着衣着火対応の様子】

◆ 「防災フェスタ in 常滑2025」と「消防団フェスタ」を同時開催

常滑市消防本部（愛知）

常滑市消防本部では、令和7年10月25日（土）、関係団体16団体にご協力いただき、「防災フェスタ in 常滑2025」と「消防団フェスタ」を同時開催しました。

このイベントは、地震などへの備えに対する市民の防火・防災意識の高揚を図ることを目的として開催したものです。

当日は、約2500人が来場し、例年実施しているはしご車試乗体験、要救助者体験、消防ヒーローショーなどのほか、新たに消防庁舎見学ツアーを実施し、普段入ることができない消防長室などの見学を行い、笑顔あふれる大盛況なイベントとなりました。

今後も、防災対応に関する知識の普及に努め、安全で安心なまちづくりにつなげてまいります。



【イベントの様子】

◆ 「林野火災防止用標識」を設置

芳賀地区広域行政事務組合消防本部（栃木）

芳賀地区広域行政事務組合消防本部では、令和7年10月21日（火）、29日（水）の2日間、一般財団法人日本防火・危機管理促進協会の林野火災防止用標識作成配付事業の一環として、焼森山と雨巻山において、茂木町および益子町と合同で、「林野火災防止用標識」を設置しました。

この標識は、林野火災の多くが人為的な火の不始末や不注意によって発生していることから、一人でも多くの方に高い防火意識を持っていただくとともに、山やその周辺でのたき火や喫煙など、火の取り扱いに十分注意していただくことを目的として設置したものです。

今年は、全国的に大規模な林野火災が多発しており、当消防本部管内においても、北部を中心に山林が広がっていることから、一旦火災が発生した場合には甚大な被害が想定されます。

今後も、山の美しい自然と貴重な森林資源を守るため、関係機関と連携しながら林野火災の未然防止に努めてまいります。



【設置の様子】



【記念撮影】

国等の動き

消防庁通知等

◆ 既存の病院及び診療所におけるスプリンクラー設備の設置状況等について

（事務連絡、令和7年11月7日）

消防庁予防課から各都道府県消防防災主管課、東京消防庁・各指定都市消防本部あてに事務連絡が発出されましたので、お知らせします。

消防法施行令の一部を改正する政令（平成26年政令第333号）により新たにスプリンクラー設備の設置が義務付けられた既存の病院及び診療所について、令和7年9月24日付け消防予第426号によりスプリンクラー設備の設置状況等の調査を実施したところです。

当該調査の結果について、別添1及び別添2のとおり取りまとめましたので、お知らせします。（別添省略）

—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

（<https://www.fdma.go.jp/laws/tutatsu/items/19a32c777151e77f3707da25d0aa8b905297871c.pdf>）に掲載されています。

消防庁予防課

企画調整係 辻、中西

設備係 関、高橋

電話：03-5253-7523

報道発表

◆ 救急業務の DX 推進に係る技術カタログに掲載するシステムの公募

(令和 7 年 11 月 5 日、消防庁)

消防庁では、消防本部における救急業務の DX 推進を図ることを目的として、令和 6 年度に技術カタログを作成しました。この度、本カタログの更新を行うため、新規で掲載するシステムの公募を実施しますのでお知らせします。

—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

(https://www.fdma.go.jp/pressrelease/houdou/items/251105_kyukyukikaku.pdf) に掲載されています。

(連絡先)

消防庁救急企画室

担当：金子、森、高山

電話：03-5253-7529

Mail: kyukyuanzen_atmark_soumu.go.jp

※スパムメール対策のため、「@」を

「_atmark_」と表示しております。

送信の際には、「@」に変更してください。

機関誌「ほのお」記事募集

一般財団法人全国消防協会では、機関誌「ほのお」に関して、各消防本部より次の投稿記事を募集しています。

①トップ・セカンド記事

②知識・技術の伝承—教えて！消防技術—

③女性職員の活躍推進

※①・②・③の執筆要領等の詳細は、週間情報（No.0716）1ページ、機関誌「ほのお」2025年4号（4/25発刊）29ページを参照願います。

TEL：03-4500-6622 機関誌「ほのお」担当：企画課 中西

原稿データは、kikakoho@fcj.gr.jpに送信願います。

④消防ワイド

【特徴】

- ・写真中心のビジュアルな広報
- ・紙媒体により記録性に優れる広報

【留意事項】

- ・文章は、Wordで100文字程度で作成をお願いします。
- ・写真は、Wordに貼り付けず、JPEG画像データを1枚送付してください。
- ・消防ワイド、週間情報の両方に投稿された場合、どちらか一方のみの掲載となります。

TEL：03-4500-6622 機関誌「ほのお」（消防ワイド）担当：企画課 中西

原稿データは、honoo@ffaj-shobo.or.jpに送信願います。

ご投稿をお待ちしております。

※添付ファイルの容量が5MBを超える場合は、分割して送信願います。

週間情報への投稿は企画課へ！

週間情報では、各消防本部の身近な情報を掲載していますので情報をお寄せください。

【特徴】

- ・原則毎週刊行される、速報性のある広報
- ・文章中心の情報量が多い広報

【留意事項】

- ・配信日（原則火曜日）から前2週間以内のイベント、訓練等を中心に掲載しています。
- ・文章は、Wordで200～400文字程度で作成をお願いします。
- ・写真は、1～2枚をWordに貼り付けて送付してください。
（貼り付けできない場合は、JPEG画像データを送付してください。）
- ・週間情報、消防ワイドの両方に投稿された場合、どちらか一方のみの掲載となります。
- ・掲載が決定した場合のみ、担当者からメールを返信させていただきます。

TEL：03-4500-6622「週間情報」担当：企画課 吉田

原稿データは、weekly@fcj.gr.jpに送信願います。